ビブリア

No. 35

福島高専　図書館報

発行　いわき市平上荒川字長尾30
福島工業高等専門学校
編集　図書委員会
昭和54年10月30日

「ブンコ，ブンコで一年暮らす」のでは？

―その限界と効用を考える―

今，わが国で文庫と称するものは約22種あり，年に約2,000点が世上に出るという。

その取っつき易さから，近来，有名無名出版社の販売政策の焦点となって増殖する一方であることは，本屋の店頭に色とりどりの小型本が我が物顔に場所を占めることでも察せられる。

岩波・教養・中公・文春・講談社・旺文社などの落着いた内容の物から，新潮・角川・集英社・創元・ハヤカワ・秋元・春陽社などなど，気易くくだけた物に及んで，一部読者の人気は高まるばかり。本号に分類した、この夏休み本校1，・2年生の読んだ本は，約60%以上はブンコで占められるようだ。

昨年秋の調べによると，高校生程度の者の読書量は，全国平均が月に1.4冊で，本県では男48%，女33%が月に1冊も読まないと発表されている。

この活字離れの傾きを支えるのに，文庫本の手ごろさが幾分かプラスになっていようが，文庫本万能となると，いささか気になることもある。

先ず，手軽さ（適度のページ数で，殆ど1冊もの）は一方で，超大作の深い内容を苦労して読み通すという，青年期に大切な志やこらえ性を，ますます失わせることにならないか。

言い直すと，硬軟各種の文庫本の中でも、人々はとかく低俗な，または娯楽的なものに飛びつきたがる。推理物が思考力を養うかどうかは別として，どっしりした本をじっくり味わい、また考えを潜めるというひとときを，限られた生活時間の中からいよいよ持ち難くしてはいないだろうか。

発行されて数年，あるいは十数年の間，読者の選択に耐え抜いた著作が，文庫に収められて生き残り，変らぬ感動を与え続けるという今までの常識は，一部の文庫については，もはや通用していない。

ある読物が際（きわ）物的に時の流れに乗ったと見てとると、商売人は文庫型に縮め、けばけばしい色紙をかぶせて，あわただしく店先に並べる。

むかしむかし，旧制中学校の教室で，人生経験の豊かな校長先生が，教科書以外，まだろくに本を読むすべを知らぬ私たち紅顔の少年に教えられたことがある。「発行後，少なくとも○年間過ぎない本は読まぬようにしなさい。」と。

その○が5であったか10であったか，遠い記憶の彼方に没してしまったけれども。

もとより，社会の進展の速度と情報生産の量との違う現在にそのまま適用できる教えとは断言しないし，殊に科学や技術の分野では，最新が最高であることが多かろう。

述べて来たことは，しばらく一般教養の分野に限って考えてもらっても，いいと思う。

人類の心の遺産と呼ばれて恥じないほどの，古典的な，長大にして深刻な内外の著作を，何冊にもわたる大型本の部厚い手ごたえを確かめつつ読み及む醍醐（だいご）味。

再びはもどらない若い日々の貴重な読書の時間に，この喜びを確実に君自身のものにし給え。

そして，書庫に眠る3万冊の本の中から，君のただ今に切実なそのような本を，ぜひ発掘してくれ給え。

（館長　池田　豊）

「夏休みの読書」を顧みる

Ⅰ．本校図書館の貸出状況(全学年)と、1冊も読まない者の数(1・2年生)

		在籍人	0. 総記	1. 哲学	2. 歴地	3. 社会	4. 自然	5. 工・技	6. 産業	7. 芸術	8. 語学	9. 文学	計	休中1冊も読まない人
1	M	41									2		2	12
	E	41		1	1		1	1				3	7	8
	C	40					2	1					3	2(15)
	土	40		2			1						3	・(17)
	計	162		3	1		4	2			2	3	15	22(32)
2	M	40											0	5
	E	42					1	5			1		7	17
	C	40					6	1				2	9	12
	土	40		1			2						3	5
	計	162		1			9	6			1	2	19	39
3	M	43		1		1		10		1	1	4	18	1C 1土の( )は、倫社科の課題図書以外には読まない者の数
	E	40		1		1	2	6			1	1	12	
	C	43		4			9			1			14	
	土	37	1	2			3	8					14	
	計	163	1	8		2	14	24		2	2	5	58	
4	M	37										3	3	
	E	38		2		2	1	3				2	10	
	C	36		4			9						13	
	土	35						5				2	7	
	計	146		6		2	10	8				7	33	
5	M	33					3	14			1		18	
	E	34			1		5	14			1		21	
	C	35					6	7			1		14	
	土	41					1	9				5	15	
	計	143			1		15	44			3	5	68	
総計		冊 1	18	2	4	52	84		2	8	22	163		

(附言) 1. 全校生776人に対して163冊で1人当り0.2冊である。
2. 貸出冊数の順は、5・3・4・2・1年となる。
3. 5年生が最も多いのは，工学・技術部門が大部分を占めるのでも分かる通り，卒業研究の必要からであろう。
4. 2年生あたりが，図書館利用の度が最高であるはずなのに，3年生が各部門にわたって，比較的多く，本校では読書意欲もこの学年が強いことを示す。
5. 夏休み約50日の間，およそ本というものに縁を切っているらしい者が2年生は162人中39人24%，また1年生は22人14%（自主的読書をしない分を加えると52人32%）に達している。

Ⅱ．類別と冊数（1・2年生）

		2年	1年
1	日本文芸		
	(1) 古典	・	6
	(2) 近代	48	35
	(3) 現代	98	95
	(4) 推理	45	33
2	日本・その他	29	24

		2年	1年
3	外国		
	(1) 文芸等	33	26(87)
	(2) 推理	16	28
総計		269	247(334)
1人当り		1.7	1.5(2.1)

( )は，倫社科の課題図書

(附言)
1. 推理物（ミステリー・SFも）は，2年が61冊で全体の23%，また1年が61冊で25%に当たる。
2. 特殊な読書家もいる。2Cに7冊が1人，8冊が2人，9冊が1人。また1Mに11冊28冊が各1人。
3. 低学年のうちに，課題などの他律的方法ででもとにかく読書の習慣をつける必要が感じとれる。

Ⅲ. 読んだ本のすべて（1・2年生）

1. 日本一文芸

	2年生	1年生
(1) 古	典	源氏物語・平家物語2・奥の細道・日本昔話集 古典落語
(2) 近	代	
四 迷	浮雲	
独 歩	武蔵野	
花 袋	田舎教師2	田舎教師
節	土	
漱 石	猫2・草枕2・虞美人草2・三四郎・それから2 こころ5・道草	猫2・坊ちゃん2・三四郎
藤 村	千曲川のスケッチ・夜明け前	
龍之介	鼻2・羅生門2・河童・トコッコ・将軍	鼻・河童2・龍之介集3
実 篤	愛と死・友情	鼻・愛と死
辰 雄	風立ちぬ・美しい村	
敦	李陵・弟子・名人伝	
有 三	路傍の石2	真実一路2・有三集2
武 郎		一房の葡萄・牛肉と馬鈴薯
直・多喜二		直一太陽のない街　多喜二一蟹工船2・党生活者
賢 治		風の又三郎・セロ引きのゴーシュ・銀河鉄道の夜 山梨
康 成	伊豆の踊子・雪国	伊豆の踊子・雪国2
犀 星	全集	
直 哉	暗夜行路	城の崎にて
潤一郎		細雪
英 治	宮本武蔵	宮本武蔵
そ の 他	紅緑一あゝ玉杯に　湖人一次郎物語 潮五郎一武将列伝	湖人一次郎物語
(3) 現	代	
太 宰	人間失格3・斜陽	人間失格・斜陽
由紀夫	金閣寺・潮騒	
整	火の鳥・典子の生き方・青春	
靖	氷壁・しろばんば	愛・氷壁・あした来る人・傾ける海・しろばんば・ あすなろ物語・緑の仲間・オリーブ地帯
達 三	結婚の生態2・僕たちの失敗3・青春のさてつ	青色革命
石 坂	青い山脈・光る海・あいつと私4	青い山脈・若い川の流れ2・寒い朝・ある日私は あいつと私
井 伏	本日休診・黒い雨	井伏集
新 田	望郷・八甲田山死のほうこう	風の中のひとみ・アラスカ物語
水 上	金閣寺炎上・飢餓海峡	
開 高	見た揺れた笑われた	
瀬戸内	田村俊子	
石 原	太陽の季節	
司 馬	関ケ原	途話として
錬三郎	決斗者	
山 岡	源頼朝・織田信長・豊臣秀吉	
杜 夫	楡家の人々・マンボウぼうえんきょう2 エヌ氏の遊園地・おかしな祖先・気まぐれロボット	ドクトルマンボウ青春記・気まぐれ指数 気まぐれ星のメモ
周 作	ぐうたら人間学・ぐうたら漫談集・ボクは好奇心の塊 第二怪奇小説集	沈黙・彼の生き方・ユーモア小説集・おバカさん 私が捨てた女・海と毒薬・勇気ある言葉
新 一	ようこそ地球さん・ボッコちゃん・白い服の男・ 宇宙の声・午後の恐龍・マイ国家・おせっかいな神々	ようこそ地球さん・おせっかいな神々・ボンボンと悪 夢・ちぐはぐな部品・なりそこない王子・ 気まぐれロボット2・妄想銀行・ブランコのむこうで 情報網時代・明治父アメリカ・人民は弱し官吏は強し
淳 一	よいどれ天使・自殺のすすめ	よいどれ天使・自殺のすすめ
筒 井	おれの血は他人の血3・七瀬ふたたび・日本列島七曲 り・にぎやかな未来・家族八景・農協月へゆく	おれの血は他人の血・革命の二つの夜・エディプスの 恋人・ウィークエンドシャッフル・48億の妄想 農協月へ行く・俗物図鑑
森 本	白鳥の歌なんか	

	2　年　生	1　年　生
富　島	二人の恋の物語	初雪・悪友・おとなは知らない2・吹雪の中の少年 純愛物語・制服の庭・星と地の日記・二年二組の勇者たち・悪友同志
ひさし	偽原始人	偽原始人・ドン松五郎の冒険
吉　行	不意の出来事	
野　坂	真夜中のアメリカ	
桂 畑	友だちならば2・青春がくる	旅に求めた青春 われら動物的な兄弟・ムツゴロウの一生・ムツゴロウの青春記・ムツゴロウの無人島記・天然記念物の動物たち
その他	北山ー戦争を知らない子どもたち2・三浦ー塩狩峠3 村上ー限りなく透明に近いブルー・磐崎ーほっぺん先生の日曜日・高橋ー九月の空3・さすらいの甲子園 栗本ーぼくらの気持・さとるー誰も知らない小さな国 ？ー石田三成・私ひとりの私・大都会・友情の設計 高校生日記・われら受験特攻隊・ある愛・日本笑話集	中沢ー海を感じるとき，有吉ー和宮様御留，高井ー少年たちの戦場2，鶏太ー若い仲間，かんべー居候浮始末・笑撃空母アルバトロス・ポトラッチ戦史， 池田ーエーゲ海に捧ぐ，村上ー限りなく透明に近いブルー，正三ー月がさす夜（詩集），松本ー足寄より，こうせつー愛の塩焼き，山中ー花のウルトラ三人衆，佐伯ー青い太陽・青春流浪，としー友情の設計・ヴィナスの域，諸星ー幸福に散った人，？ーやぶれかぶれ青春記・飛ぶ教室・リラの森・足寄より・さらば宇宙戦艦ヤマト
(4)　推理・ＳＦ		
清　張	点と線・ゼロの焦点・わるいやつら	砂の器
公　房	むごく静かに殺せ・人間そっくり	
乱　歩	魔術師	乱歩集
横　溝	仮面城・怪獣男爵・大迷宮・夜光虫・貸ボート13号 獄門島・三首塔・病院坂の	金田一耕助の冒険2・大迷宮・黄金の燭台
高　木	白昼の死角3	白昼の死角4・密告者・青
小　松	地球になった男・夢からの脱走・ある生き物の記録	
森　村	真昼の誘かい・夢の虐殺・虚無の道標・通勤快速電車殺人事件・分水嶺・失われた空間・白昼の死角・青春の証明	人間の証明2・野性の証明2・青春の証明2・暗黒流砂・夕映えの殺人
半　村	戦国自衛隊・平家伝説	
平　井	悪徳学園・死霊狩	怪物はだれだ
西　村	しかばね海峡・殺意の盲点・青の魔性・企業特訓殺人事件・科学的管理殺人事件	二万時間の男・汝怒りをもって報いよ・わが赴くは蒼き大地
その他	大藪ー謀略空路・よみがえる金狼，夢野ードグラスグラ，有恒ータイムスリップ大戦争2・サイボーの王女 イルカの惑星，三好ー遥かなる男	小峰ーパスカルの鼻は長かった・親不孝のすゝめ，光瀬ー異次元海峡・墓誌銘2007年，高千穂ー銀河帝国への野望・人面魔獣の挑戦，石原ーブラックホール惑星，眉村ー天才はつくられる，辻ーＳＦ番長ゴロー ？ーＳＦ傑作集
2．日本ー文芸以外		
ノンフィクション・解説・雑	黒柳ーチャックより愛をこめて，山本ーあゝ野麦峠2 稲田ー高校放浪記3，永ー一泊二食三千円，丸谷ー男のポケット，深田ー日本百名山，三延ーもう頬づえはつかない，河盛ー人とつき合う法，安岡ー心の本， 松下ー若さに贈る，梅棹ー知的生産の技術・わたしの知的生産の技術，？ー仏教・瞑想入門・人間の心得・フェノメナ・システム工業・タイムマシンの話・宇宙学入門・続…・自動車のデザイン・銀河と宇宙・空飛ぶ円盤の真相・空飛ぶ円盤とアダムスキ・自然の弁証法（エンゲルス）・頭のいい税金の本	桂木ー執念のサファリ，所ー成り下がり，磯村ーあの時世界は，丸谷ー女性対男性，？ー飛翔・時刻表の旅 河盛ー人とつき合う法，？ー縄文人の知恵にいどむ・人間の歴史・時刻表二万キロ・動物は地震を予知するか・銀河鉄道999・知的生産の技術・知的生産の方法・いかに学ぶべきか（忠雄）・男のポケット・モルモン経・ミクロ探検99の謎・相対性理論の考方・血液型の話・宇宙の終えん・釣の科学・猫の百科・無法ポリスとわたり合える法
3．外国ー文芸他		
ロシア	トルストイー人生論・短篇集，ドストエフスキー罪と罰	トルストイー光あるうち光の中を歩め・イワンのばか ドストエフスキー罪と罰
フランス	デュマー椿姫，モパッサンー女の一生，スタンダルー赤と黒2，ジュネー泥棒日記，ジドー狭き門，サガンー悲しみよこんにちわ・ある微笑，ボワイエー禁じられた遊び	デュマー厳くつ王，ルナルーにんじん，カミューー異邦人

	2　年　生	1　年　生
ドイツ	ゲーテー若きウエルテルの悩み，ハイネー詩集，ヘッセー郷愁・デミアン・車輪の下・カフカー変身，アンネーアンネの日記2	ヘッセー車輪の下4・知と愛
英　米	デイケンズークリスマスカロル，ロレンスーチャタレイ夫人の恋人，ウェブスター足長おじさん，リネンーいちご白書，シートンー動物記，？ー長距離走者の孤独・フレンズ2・愛人・スタンリイ・猛将パットン	ミッチェルー風と共に去りる，ヘミングウェイー老人と海，ロンドンー野性の呼び声，ローリングスーわたしは13才，マクグレディーエプロン亭主奮戦記，ディリー17才の夏，ギュルーリラの森
シ　ナ	三国志2	？ームーミン谷の仲間たち・リトルロマンス・愛の天使たち，花咲く乙女の蔭に
その他	セルバンテスードンキホーテ（スペイン）	イプセンー人形の家（ノルウェー），ショートショート世界傑作集，ヘリオットーわたしは獣医，ミラーー原子炉が溶ける •化学・土木科の倫社宿題の本 ソクラテスの弁明クリトン（プラトン）35，饗宴（プラトン）24，福音書7，新約聖書4，ブッダのことば7，現代語訳論語10
4．外国ー推理他		
ドイル		シャーロックホウムズの冒険2，〜の生還，〜の最後の事件，恐怖の谷
クリスティ	カーテンポアロ最後の事件	晩さん会の13人，アクロイド殺人事件，予告殺人，そして誰もいなくなった
シムノン	黄色い犬	
ルブラン	ルパンの告白	ルパンの告白
ダイン	グリーン家殺人事件	カナリヤ殺人事件
ガードナー		ビロードの爪
クイーン	災厄の町	エラリクィーンの冒険・Yの悲劇
ハミルトン	太陽強奪	太陽強奪・恐怖の宇宙帝王・暗黒星大接近・すい星王の陰謀
その他	スミスー銀河パトロール，・グレンズマン・レンズの子ら，ディクソンカー三つの棺・火刑法廷，ヴィリエープリンスマルコシリーズ，ムーアー暗黒神のくちづけスチブンソンージキル博氏とハイド氏，？ーペーパームーン・太陽系無宿	フォスターエイリアン，クロフツー樽，ジョンズー二重太陽系死の呼び声・惑星ゾルの王女・放浪惑星ゾルの洞窟，・ムアコックー野獣の都，シーガルーオリバーストリィ，？ー奇厳城・ペクロダンシリーズ，・神への長い道

（附言）1．近代では，漱石・龍之介。また現代では井上靖・北杜夫・遠藤周作・星新一・筒井康隆が1・2年にわたって人気を集めている。
2．推理物は，現存の若い作家のものに関心が高い。
3．外国文芸では，第一級の名作・長篇が読まれないこと，甚だ心もとないばかり。

学んだ作品と読んだ本から紹介と感想

1．うつくしいもの　　（八木　重吉）

わたしみずからのなかでもいい
わたしの外の　せかいでも　いい
どこかに「ほんとうに　美しいもの」は　ないのか
それが　敵であっても　かまわない
及びがたくても　よい
ただ　在るということが　分りさえすれば
ああ　ひさしくも　これを追うに　つかれたこころ

1E　加藤　裕昭

作者が自分自身の中に，ひたすら「ほんとうに美しいもの」を追い求めている一生懸命な心境が感じられる。たとえそれが，自分の敵であっても，あるいは及びがたいものであっても，その存在のみを知ればそれでいいという純粋な心を表現しているが，同時に，その美しいものはどこにもないという答えをも示している。

まさに，求道的な態度で描いているわけで，結局，作者は彼自身，実は「ほんとうに美しいもの」とは，それを追い求める心そのものであるという観念を与えているのではないだろうか。作者は，その観念に基づいて，漢字を抑えた，平仮名で柔らかさを強調した表現をしている。

2. 鹿　（村野　四郎）

鹿は　森のはずれの
夕日の中に　じっと立っていた
彼は知っていた
小さい額が狙われているのを
けれども　彼に
どうすることが出来ただろう
彼は　すんなり立って
村の方を見ていた
生きる時間が黄金のように光る
彼の棲家である
大きい森の夜を背景にして

1C　目黒千麻子

この作品を読んでいると，その情景が浮かんでくる。太陽はこの鹿の命のようであり，沈む前の太陽は，哀しさを感じさせるような夕焼け，真赤な太陽。しかし，太陽は沈んでも再び昇るが，鹿の命は、もう二度とよみがえることがないのだ。これが運命と割り切ったとしても，まだまだ生命の炎は燃え盛っているのに，いったい，誰にこの炎を消す権利があるのだろうか。

彼は，どんな気持ちで村の方を見ていたことだろう。その瞳の中に何を焼き付けているのだろうか。自分の敵として，人間達を見ているのだろうか，それとも，人間を哀れんでいるのか。いいや，彼は，人間達など見てはいないのではないだろうか。彼の過ごした日々を思い出しているのではないだろうか。そして，彼は，人間達に，ひたすら生きて来たものの，本当の美しさを，誇っているのではないだろうか。その姿は，夕日に溶け込み光るのだ。さらにいっそう美しく，輝かしく。

しかし，彼の命は，背景の森の闇の中に消え失せるのだろうか。しかし，暗い森も，やがて月が昇れば，静かに，照らされるように，森は，彼の姿を、静かに思い出し，懐かしんでくれるだろう。そして，どこかで，また新しい生命が生まれるだろう。やがて，太陽が昇り，いつもと変わらぬ朝が来て，いつもと同じ一日が始まる。しかし，彼の姿を見ることはできない。

---

3. 羅　生　門　（芥川龍之介）

1M　鈴木　国雄

私は，芥川龍之介の作品を，今までにたくさん読んだと思う。それは読みやすかったからだが，読み終えた後の気持が，他の作品ならば，その読み終えた時点での自分の気持が，悲しいとか，うれしいとかに感じとれたのに対して，彼の作品にそれがないのである。どういうふうになるかと言うと，自分がどう感じたのかが，言葉に表わせないのである。

たとえば，今まで読んでよかったと思う作品に「芋粥」があるが，それがちょうど，上の話にぴったりの気持になった作品だと思う。話しの筋は，平安朝の貧しい下役人が，年に数回少量しか口にすることができない芋粥を，御馳走してもらえるきっかけをえたのだが，山積みされて，鍋にたっぷりと煮られる芋粥を見たら，ほとんど食べることができなくなってしまった，しかしその男の気持は妙にすがすがしかった。ということである。私は，この作品に出合ったとき，この気持がすごく身近なものに感じられた。なんか，自分もこういった経験に，何度も出合っているような気がするのである。彼は，この作品に，実にみごとに，生きている人間の心の奥の，普通の考えでは読みとることができない，微妙な，それでいて本当の，人間の心を表わしているのだと思う。

だから，私は，彼の作品が好きだ。

この羅生門には，なにかこう，なんとも言えない腹ただしさが残った。彼は人間の心理をよみとるのが，とても鋭い人である。だからこそ，この作品に対して不快になるのである。この作品は，人間のみにくい点をもろにさらけだしているのを感じた，下人にしろ老婆にしろ同じである。社会の乱れはあるとしても，もう死ぬような人が，死人の髪まで抜いて，すこしだけ生命をのばしても仕方がないのではないのだろうか，下人にしても同じである，盗人をしてまで生きていく必要があるのだろうか，下人は，ずうっと，社会が安定するまで盗人をしていくつもりなのであろうか。人間はどうしようもなくなると，みな，利己主義になってしまうのだろうか。

私は芥川龍之介の作品からいろいろな事を吸収してきた。

そして「羅生門」という作品からは，人間の極限における利己主義というものを，吸収してしまった。

1C　赤川　卓史

この小説を読んで，一番最初に考えたことは，はたして人間が，他の人間を犠牲にしてまで，生きのびようとすることは良いことなのだろうか，ということである。そこで，自分が下人であったならどうしただろうか，ということを考えてみることにした。まず，僕なら，右のほおにできた大きなにきびは，気にする前につぶしてしまうだろう。次に羅生門の楼の上であるが，死人の髪をぬいている猿のような老婆を見たら，きっとその場で腰をぬかすだろうが，一応，追いかけて老婆と格闘することにしよう。

そして，老婆の話を聞いたら，髪をぬくのを手伝っていたかもしれない。当然，わけ前はもらうだろうが……

ところで，話はもとにもどるが，下人は，老婆から引剥をした。僕の結論は，どんな理由があろうとも，他人を犠牲にしてはいけないと思うのだ。きっと下人も後悔したであろう。この後，下人は，盗みを犯したために，一生，良心の呵責に悩まされるだろうと思う。しかしその反面，もし自分も生きるか，死ぬかのせとぎわまで追いつめられたのなら，下人のように盗みを犯してしまうかもしれないとつくづく考えさせられた。

---

4. しんとして幅広き街の
秋の夜の
玉蜀黍の焼くるにほひよ （石川　啄木）

2M　金成　義順

私が選んだ，この石川啄木の詩は，季節の移り変わりを歌っていると思う。ここに上げた詩には，いつのまにか，どこからともなく玉蜀黍のにおいがして，もう秋なのか，と感じとったその時の気持ちが，すなおに出ていると思われる。そして，この詩には，少し変わっている所が見られる。各句の末尾の所が「の」で終っている所だ。これはとても印象的だと思う。そのため，この詩を読み返すと，秋なんだなー，という気持ちになってくる。

焼とうもろこしを詩の中に出したことは，うまいと思う。初めに読んだ時は，頭の中が秋の情景に一変してしまうほどであった。それに，この詩は嗅覚的であり，夏から秋へと変ろうとしている中で，とうもろこしのにおいがしている。しかし秋もそのうち，終りになるだろう。そしたら，あの寒い冬の中では一体どんなにおいがするだろうかと，探し求めているようでもある。

作者の悲しい気持ちも，表面には出さずに，奥の所に，隠しておき，黙っている。このようなひたむきな作者が，私は好きである。

---

5. 夕焼け空焦げきはまれる下にして
氷らんとする湖の静けさ（島木　赤彦）

2M　鈴木　勤

作者は，夕日が冬空を焦がす中，湖の辺に一人たたずみ湖を見つめている。そこは，もう人影もなく，ひっそりとしていて物思いにふけるのには絶好の雰囲気なのであろう。

何故，作者はその湖に行ったのだろうか。何か用事でもあったのだろうか。旅行に出ていたのだろうか。これが若い女性だったなら，恋人に捨てられて，悲しみのあまり生きていく希望を失い，自殺を決心しているように見えるかもしれない。私が思うには，仕事に疲れて，自然を見つめて休養をとるために来たのだろう。

ここには，自然が描き出す，すばらしい美しさがある。それは，あかあかとした夕焼けと，静かに今まさに凍りつこうとする湖との対立である。静と動というところまではいかないが，それに近いのではないかと思う。

しかし，あかあかと燃える夕焼けより，いまにも凍ろうとしている湖の静けさに，作者は強く感動したのだと思う。

2M　吉田　俊文

まず，読んですぐに気がつくことは，夕焼け空と湖が対になっているということだ。焦げきはまれる空と氷らんとする湖は，作者が見た時に熱い赤と冷たい青でそれぞれ風景の色相を引きしめていたのではないかと思う。

ぼくは，作者についての予備知識がないので，真実はわからないが，これを作った時，作者には悩みがあって，その葛藤の中にたたされた心情が，この景色のコントラストを描く二つの色の中に写し出されているという感じを抱いてしまう。

実際には，単に景色の美しさ，雄大さを素直に詩ったにすぎなくて，作者の心情はそれに感動しているのかもしれないが，この歌を初めて読んだ時はそう思った。

---

6. 秋晴れのひかりとなりて楽しくも
実りに入らむ栗も胡桃も（斉藤　茂吉）

2E　木村　義昭

この歌から，写生力の鋭さが伺えるようだ。解説に終戦直後だとあるので，なるほどと感じさせられた。それは，「楽しくも実りに入らむ……」から，終戦当時，食糧不足に悩まされ，生活も貧困で，今では，考えられないほどの苦労を強いられ，親兄弟を戦争で亡くしたりで，苦労や悲しみの泥沼の生活，混乱した社会の中で，一筋の光が希望を与えているように思える。味覚の時期の秋に，例年にはない食物のありがたさが，わかるような気がする。歌人は，山形の生まれで，私には一番親近感がある。作物の収穫の時のうれしさ，喜び。一年の苦労が報われる一瞬だ。そして，この日を作者の転換期としていったのではないかと思う。それから，新しい世界を求めて。

私は，この短歌のさわやかさにひかれたと思う。この風景を思い浮かべると，幼いころの時のものに似ていて，懐かしさがわいてくる。

---

7. 幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむ国ぞ
今日も旅ゆく　（若山　牧水）

2E　中山　俊彦

あと幾つ山を越え河を渡って旅を続けたなら，寂しさのはての国つまり幸せにたどり着けるのであろう。幸せを夢見て，今日も寂しい心を持って旅をするのである。といったことが，繰り返し読むにつれ，私の心にひしひしと感じられる。この短歌から，作者はたとえようもない寂しさの中に居りそこから逃れようと自身を旅の生活の中に置いているということがわかる。しかし，旅の生活で寂しい心を紛わしているのではない。そんなことで，心をごまかしても，それは一時のまやかしにしか過ぎないし，完全には拭い去ることはできないのである。そのことは作者にも十分わかっていたはずである。では，なぜあえて旅を続けるのか。旅の中に身を置くことによって本当の自分自身を見つめ，生活の寂しさに立ち向かおうとしているのである。このことから作者の，人生を真剣に考える姿勢がありありとうかがえる。

牧水は，生活の中心を旅に置いていた。日々，旅の空の下で過ごし自然と触れ合った。そんな純真な心が彼の感受性を鋭く研ぎ澄まし，この作品に見られるような澄んだ響きを残しているのだと思われる。

---

8. みづの上日記　（樋口　一葉）

3C　鈴木　寛美

「一葉って人は，結構たくましくて，知的悪女タイプだったんだなあ。」というのが，僕の素直な感想である。

僕が始めて樋口一葉という名と出合ったのは，たぶん小学校の，それも低学年の頃であったろうと記憶している。ラジオから流れてきたのは，女性アナウンサーの甘美な声で，それとその声が語って聞かせる彼女の生涯とあいまって，僕の勝手な想像力は，あたかも小女漫画のヒロインのような，幸薄き，手をふれると今にも壊れそうな白いうなじと細い腕を持ち，日陰で人知れずひっそり咲いている百合のような女性，そのような樋口一葉の確固たるイメージを脳裏に描いて，それ以外の空想は，邪悪であり，彼女に対する悔辱であるとさえ思ったのであった。

しかし，実際の彼女は，明治二十年代という動乱の大海原の中を，押しよせる波しぶきから，彼女をたよる家族を守る盾となって渡るために，ちょっと見れば他人を手だまにとって繰るというような，おそらく僕のイメージとはかけ離れた女性のように思われがちであるが，僕はこのような現実の姿こそが一葉の全てとは考えられない。どんな潔白主義者でも，夢を食って満足感は得られないし，雲の上には住めない。現実に飯を食って家に住まなければ生きてゆけない。きっと一葉自身も理想と現実のギャップに苦しんだと思う。

僕は，中学時代に，彼女の代表作である"たけくらべ"を読んでいるが，この小説中で彼女は，登場する子供達の言語行動を，実に繊細に，そし慈愛に満ちた感情をおりこんで書いている。上辺だけで判断すれば，彼女はほんとうの知的悪女であったかもしれないし，又薄幸の境遇を生きて行くためには，それは，どうしても必要な一面であったであろう。が，小説の中で彼女がみせた，自分と同じしいたげられた世界に生きる人々に対して持つ優しい気持は，まぎれもない彼女の樋口一葉としての一面である。

結局，彼女は，小説の中でしか自分のほんとうの姿を表わせなかったのかもしれないし，又，そうせざるを得なかったのかもしれない。だとしたらそれは悲しいことだ。彼女みたいな人を，時の流れからすくい上げて，なんの悩みもない世界で，自分の本物の小説をおもいっきり書かせてやってみたい。

---

9. こころ　（夏目　漱石）

3E　佐藤　広喜

実を言うと，僕がこれを読むのは二度目であり，去年の夏に読んだのが最初である。

この小説は，三つの短編が互いに関連し合って一つの長編となっているもので，主人公は先生と呼ばれる人物であり，その他の登場人物に私，下宿屋の奥さんとその娘，私の親友であるKがいた。

そのあらすじは，まず大学生であった私と先生が，鎌倉の海水浴場で偶然に知り合うことから話が始まり，私には先生の性格や言動に納得のいかないことが多いという理由で，次第に彼に対する関心が高まってきて，二人の関係が急速に密接になるに従って，まるで先生夫妻と家族同然の付き合いをするまでに至る。

そうしているうちに大学を卒業した私が，父母の住む実家へ帰ることになる。父親はもうすでに病の床に臥しており，日に日に死に近づいている。私はそのような父の様子を見て，死というものについて考えさせられる。

そこへ先生の過去の告白である遺書が届く，それには，今まで私に納得のいかなかった事柄が，納得のい

くように書いてあった。それによると，財産のある家で育った先生が，信頼していた叔父に裏切られたことによって世の中に愛想をつかしてしまった。人間を信用できなくなった先生は，次に下宿屋の娘のことで，無二の親友であるKを自殺に追いやってしまい，今度は自分という人間に愛想をつかしてしまう。そうして最期には，自殺という形で自分自身を放棄してしまうというものだった。

僕がこの小説を読んで一番強く感じたことは，人間という生物は，自分の利益のことばかり考えて他人のことを考えないのだろうかということである。僕も人間なので，先生と同じ立場に置かれたならば，やはり先生と同じ行動をとるかもしれない。しかし僕には，自殺するということまではまず考えられないと思う。性格の違いと言ってしまえばそれまでなのだが，自分が死んで後に残される者のことを考えれば，自殺などしないのが普通だと思う。先生は弱い人間ではあるが，強い意志を持った人であると思った。

この小説は，人間の心の醜さやその命のはかなさ，男女関係の難しさなどについて教えられることの多い作品だった。

---

10. ジョン万次郎漂流記　（井伏　鱒二）

3E　村山　吉夫

ジョン万次郎が生まれたのは，文政10年，土佐の国の中の浜という漁村であった。その頃の日本は，幕藩体制の下での太平の世の中が，異国からの招かざる客のために，徐々に崩壊しつつあった。

ところで，彼は，幼くして父を亡くし，わずか13・4才の時から，漁船に乗り組んで，家計を助けるために働いた。現在の日本人の生活からは想像できないくらい貧しい生活を強いられていた結果のことだと思う。

さて，ジョン万次郎は，15才の年の，正月5日，仲間4人と共に，その年の初漁にでかけ，「しけ」にあっておよそ一週間の漂流の後，小さな無人島に漂着した。その間，頼みの漁船は壊れ，食料もなくなって，彼ら5人の生命は危機に直面していた。だが彼らは，その島のアホウドリを食べ，海藻を食べて，飢えをしのきながら，数カ月の間，生き延び当時，日本近海まで鯨を追ってきていたアメリカの捕鯨船に救助された。そして，ここから万次郎の，本当の漂流がはじまったのである。

彼は，アメリカ漁船によって助けられ，アメリカ本国まで連れて行かれる間に健康を取り戻し，さらに英語を理解しようと努めた。そして，彼は5人の中では一番若く元気もよかったので，船長に気にいられてアメリカの文明教育を受けさせられることになり，数学・測量・読書・習字などを学んだ。

ジョン万次郎という愛称は船長がつけたものである。そして数年，彼は捕鯨船に乗り込んで，また漁をはじめた。さらに数年後，彼は，病死した1人と帰国の意志をなくした1人とを残して，幕末の日本へ帰り，幕府の通訳として維新を迎え，維新後は英語教師としての生活を強いられた。そして，彼が故国でしようとした，大海原での捕鯨の夢は，ほとんどかなわなかった。時代の流れに押し流され，自分の思い通りに事が運ばない生活の中で，ジョン万次郎は，やっと安住の地にたどり着いた。明治31年11月12日のことである。ジョン万次郎は波乱に満ちた一生の，幕を閉じたのであった。72才であった。

私は，この小説を読んで，人の運命というものを考えずにはいられなかった。人間はこの世に生を受けてから，誰かに，見ることのできない糸で繰られているような気がした。ジョン万次郎という人間の一生を考えてみると，彼は常に，受け身の生活をしていたことに気が付く。貧しさゆえに，幼少の時から漁船に乗り組み，漂流し，異国での生活を強いられ，異国語を身につけ，それがもとで故国に帰ってから通訳として，自分の意志とかかわりのない生活を強いられる。これらの万次郎の行動は，ほとんど彼の意志には，無関係である。私は今，何か恐ろしいものを感じている。自分の未来は，いったいどんなものになるのか，非常に不安である。しかし私も，ジョン万次郎のように，受け身をじょうずに生活したいものである。

私が，このように考えたことは，すべて，この小説の筆者，井伏鱒二氏の意図していたことのように思われる。文明が発達し，何でも手にはいる生活を続け，わがままになった現代人に対して警告を発するために，この作品は書かれたものであろう。読み終わってからふとそんなことを思った。（角川文庫）

---

11. 八甲田山死の彷徨　（新田　次郎）

3土　鈴木　恒之

夏休みのある日，ぼくは，本屋で手ごろな文庫をさがしていた。ふと目をやるとそこに，「この本を読み切れば，小麦色。新潮文庫の100冊」という青いラベルがくっついている本を見つけた。ぼくは，この文句が気に入ったので，さっそくこれらの中から，選ぶことにした。

そして，新田次郎の「八甲田山死の彷徨」を選んだ。なぜかというと，昔，テレビか映画か何かで聞いたことがあったし，友達のすすめもあったからで，実に単

純な動機であったが，読み終えてみると，もっとほかの新田次郎の作品も読みたいと思った。

八甲田山中でのこの事件は明治35年に起こった。これは日露戦争を目前にひかえての，青森第5聯隊と第31聯隊との2つの聯隊の雪中行軍について書かれたもので，結局，31聯隊38名は全員無事でこの行軍をやってのけ，5聯隊210名は，199名の死者を出すという大惨事に至ったという実話である。

ぼくは，この本を読んで，神田大尉・徳島大尉・山田少佐という3人の軍人の人間的なものを考えさせられたような気がした。この中の神田大尉と山田少佐は5聯隊の人物で，神田大尉が隊の指揮をとることになっていた。徳島大尉は31聯隊の指揮である。5聯隊の遭難は，地元の案内人をつけなかったことと，神田大尉が指揮をとるはずのところを山田少佐がとってしまったことによるとぼくは思う。そしてついには，2人とも死んでしまう。神田大尉は，もうちょっとで救助される寸前で，舌をかんで死んでしまうし，山田少佐は，助けられて病院で手当てをしていたときに，銃で自殺してしまう。ぼくはこういう人が，本当の軍人のような気がする。徳島大尉は，隊が小数であったせいもあるが，地元の村人を案内人として頼んで，その人を信じきったからこそ210余キロを，11日間で踏破できたのだと思う。

5聯隊が出会った雪地獄の描写を，本当にこの本はよく描写していると思う。読んでいてその場面がありありと頭の中に浮かんでくるような感じがした。気が狂って裸になり死んで行く者，眠ったまま死んで行く者，立ったまま死んで行く者，川を泳いで助けを呼んでくると言って川に飛び込みそのまま死んで行った者など，現実ではちょっと考えられないような死に方がつぎからつぎへと出てくる。そしてこのことは，過去にあった実際の出来事なのだ。ぼくは，このようにして死んで行った人たちが，ものすごくかわいそうで哀れだなと思った。よく，山男たちは，山で死ねれば本望などと言うけれど，ぼくは決してそうは思わない。やっぱり人間が，いや日本人が死ぬときは，たたみの上でなければならないと思う。

最後に，新田次郎は登山家でもあるので，冬山などの経験から，このような描写ができて，小説を書くことができたのだそうである。機会があったら「縦走路」とか「強力伝」を読んでみたいと思う。結局，読み切っても小麦色にはならなかった。（新潮文庫）

12．黒部の太陽　　（木本　正次）

3土　山本　一俊

たまたま家にあったこの本を読んで，本当に良かったと思います。初めて本を手にした時，一番最初にヘルメットをかぶった男の人が，ハンマーを持って，岩を砕こうとしている絵が目に入りました。裏には，ツルハシを持った人と，スコップを持った人がうなだれている絵があり，上のほうに380円と書いてありました。ずいぶん昔の本だなあ，あまりおもしろそうじゃないなと，思いました。この本が，黒部電力第4発電所ダム工事の事を書いてあるというのは，表紙の絵や，さし絵などから，容易に知ることができましたが，こんな一冊の本にするほどすごい工事だったのかなと思ったりしながら，パラパラとめくりました。ぼくは，本を読むときのくせで，本文よりも，「はじめに」とか「おわりに」とか，とにかく，そういうところを先に読みます。この本の場合もそうでした。

まず，工事関係者の手記を見ました。大成建設とか，間組とか，一流会社の名まえがいくつもありました。ほーこれはすごい，読んで損はしないな，なんて思いながら読み始めました。ぼくも土木の学生ですから，けっこう，何を言ってるのか分りましたが，読んで感動するという所まではいきませんでした。でも，ずーっと読んで行って，作者の「紙碑への志」を読み終る頃には，速く本文を読みたい，いったいどんな話なんだろうという気持ちにさせられました。

一気に読み通して，ぼくの体の中に，深い感動と，自分に対するいらだちとが残りました。土木工事に対する期待というか，あこがれというか，それと，果たしてぼくがこういう仕事をやっていけるかどうかという不安が残ったのです。

土木工事が，全てこの黒四ダムのように困難なものとは限らないでしょう。いや，この工事は，非常に困難なものだったから，他はそんなに難かしくはないかも知れません。でも，ぼくにとって土木工事は未知であり，どんな工事をするかは，これから決まるのです。

この物語り，いやこの工事ではたくさんの人が亡くなりました。中でも山本という青年が，トンネル内で測量をしていて不注意のため亡くなりました。この人は，高校時代の仲間が病気の時，2人分の働きをしてがんばりました。険しい山の中で，それは，非常につらいものだったでしょう。また，大熊という人は，九死に一生の大けがをし，それでも工事の事を思っていました。

感動した，などという前に，ぼくには，今，自分の置かれている立場に対する，いらだちと，あせりが，

体の中でもやもやしています。（講談社発行）

---

13. シュワイツァー　（山室　静）

3C　斎田　裕子

表紙をめくると，シュワイツァーが病院の見まわりをしている写真があった。もちろんアフリカの地に彼がつくった病院である。年老いた大きな体に作業服をつけ，帽子をかぶり，暑そうである。

大変だったと思う。未知の地へ，ほんとうに恐ろしいほど何もなく，私達の常識とは全く異なり，そして，イギリスから無事に到着できるかどうかさえもわからない土地へ行ったのだから。ただアフリカの人々を助けたい一心で自分のふるさと（ドイツ・アルザス）を後に旅立った彼は，もうそれだけで私達が一生かかってできる事，いや，できないかもしれない事を十分に成し遂げたのではないだろうか。

このような大きな感動を心に残して，一度めの読書を終えた。二度めは，シュワイツァーの信念にもっと深く入りたく思い，三度めは，シュワイツァーに少しでも近づきたく思い，ひと文字ひと文字しっかりと読んだつもりである。この結果，私は，一度めは写真に何か感じるものがあって前に述べた感想を得た。しかし，二度めと三度めは残念ながら，彼の信念に深く入り込むことも，彼という人に近づくことも全く出来なかったのである。何度読んでも私が得るものは，感動ばかりなのである。それは，あまりに彼が偉大でありまた，彼の一生がすばらしく，彼の信念がとても少しのことではこわれそうにないからだろう。そして，今，親に甘えて生きている私には，それを得るべき資格がないに違いない。

シュワイツァーは，少年時代から普通の人とは違っていたように思える。彼に，子供の頃からもう，人間は，平等でなければならないという事を，言葉では表わせないにしろ，頭の中に，形づくられていたのではないだろうか。ある日，彼は友達とけんかしてまわりの予想とは反対に勝った。すると，けんかの相手は牧師を父に持つ彼の家だけが村の他の人と違って肉入りスープを食べているから勝ったんだと言いだした。しかし，この言葉は，シュワイツァーの心に深く何かを感じさせた。翌日から彼は，親がいくらすすめても肉入りスープはひと口も食べない子になった。一時の子供の意地にすぎないと思う人も多いだろうが私はそうは思わない。それはこうした精神が成長した彼をアフリカに行かせたのであると考えるからである。結局ここで17才の私は，7・8才のシュワイツァーに，人間の平等について考えさせられたのである。

私に他にもたくさんのことを教えてくれたのは，小さいシュワイツァーばかりでなく，大きくなってからの彼も同様である。パイプオルガン・哲学といろいろ勉強し，すぐれた業績をあげていた彼は，それだけでは，満足しなかった。30才までは，自分のしたいことをして，その後は人のために尽くそうと考えた。そして，29才から医学の勉強を始めたのである。それもパイプオルガンを演奏しながら，大学で哲学の講議をしながらである。医学の勉強を終えてアフリカに行くと彼が言い出した時には，まわりの人々は，反対した。当然のことであろう。何もそうまでしなくても，彼は，それまでの成果で十分にすばらしい人生を送れるに決まっているのだから。しかし，彼は旅立ったのである。反対していた人々も最後には彼の資金集めにかけ回ってくれた。

アフリカに行ってからの彼は，眠る時間もないほど働いた。黒人のかかる病気は，彼が知らないものがほとんどだったし，未開の黒人の習慣は，ひどいものだった。彼は先ず黒人たちを指導して病院をつくることから始めねばならなかった。彼は，病気を直すだけでなく，身の上の相談にのってやったり，人間的な指導（ここで哲学と神学が役立ったのだが）をしたりして，人々の信頼を高め人気者になった。お金がなくなれば，イギリスに戻って資金集めをしてまた，アフリカに戻った。その他たくさんの苦労がいつも彼にはあった。後には，世界各地から，彼を助けるためにアフリカの彼の病院へ働きに行った人もたくさんいた。

休むことがなかった人生。しかし，彼自身満足したであろうか。いや，彼は，そんな人間ではない。人のためには，自分をどのような立場に追い込んでも尽くすのである。自分の生き方を信じていても満足などという打算的な考えはなかったに違いない。

さて，私は二年生の時，国語の教科書でシュワイツァー著の「生への畏敬の倫理」を読んだことがある。その時，私は"生きること"について考えた。そして，彼の「人は皆，各人秘密の何かを犠牲として，善を実現するようにしなければならない」という考えに少し共感しつつも，ただの理想論だと思っていた。そして，「一枚の葉も一輪の花も折らず，一匹の虫も踏みつぶしては，いけない」という彼の考えは，誇張し過ぎだとも思った。しかし，今の私は，彼の考えは理想論でもなく誇張し過ぎでもないと思うに至った。それは，シュワイツァーが，ほんとうに自分が述べている通りに生きてきたことが分ったからである。（旺文社文庫）

---

14. デミアン　（ヘルマン．ヘッセ）

3M　志比奈　忠

読後ある期間を置いた後，心の中で半ば無意識に整頓されたものを呼び起こし楽しむことができる本は，そう多くはないと思う。

しかし，このヘッセの「デミアン」は，そんな本のうちの一冊だと言うことができる。

この本は，ヘッセの作家としての分岐点となったものであるし，またこの作品以降の創作活動の全てを示唆してくれるものである。第一次世界大戦によるヨーロッパの荒廃という外的事情が，そしてヘッセの心が捕えた内的事情が，彼自身を通り一遍？のノスタルジア作家として止まることを許さなかったのである。

ヘッセはこの作品で，少年期から青年期への主人公の内的葛藤，彼自身が「内面への道」と呼んでいるその過程を描いている。「デミアン」とは，主人公を導いてくれるものの名である。確かに「デミアン」は主人公の友人の名として登場するのだが，実は主人公の分身もしくは主人公自身とでも言うべきものである。

少年シンクレールは，二つの異なる世界があることに気付いていたが，クローマーとの間の小さな一事件によりその二つの世界のどちらにも住まなくてはならなくなる。それからデミアンという年上の少年が，救世主のように登場する。デミアンは彼に彼自身の「内面の道」を指し示す。「カインの印」と「アプラクサス」は彼に後に，善と悪を兼ね備えた神というものを，少年期の「二つの世界に住む」ことの意味を明示した。彼が，まだ自分はデミアンによって導かれるものだと信じていた頃，彼が描いたベアトリーチェの絵の中に「デミアン」，そして彼自身を見たときから，彼は「内面への道」を自分が歩いていることに気付く。

この作品全体，つまり，主人公シンクレールの内的過程を象徴するものは，ハイタカの紋章である。「卵は地球である。ハイタカは，そこから抜け出ようと必死にもがく」卵の中は，混頓と無意識である。卵から抜け出ることは，誕生であり意識的である。つまりそれが「内面への道」を歩むことに他ならない。

最後に，最も印象に残ったのはこの作品の前書きの中の文章である。「誰もが自分自身の道を歩いている。ある者はより明るく，ある者は力強く，めいめい自分の力に応じて」まだ再読の必要のあることを感じる。

---

15. 武器よさらば　（ヘミングウェイ）

3M　武田　倫明

私が，この作品を読むきっかけと，なったのは，やはり同じ作者による「老人と海」を読んで人間味というようなものを強く感じたことである。

最初，この作品の題名から受ける印象より，戦争を憎み，戦争から逃げ出そうとする主人公の姿を思い浮べていた。

第一次世界大戦にイタリア軍士官として参戦したアメリカの青年フレデリックは，絶望的な戦場で戦ううちに，婚約者を失った看護婦キャザリンを知る。戯れに始まった恋は，彼が，負傷して病院で再会した事から発展し，悪化する戦況の中で激しく燃えあがる。やがてイタリア軍は退却する。その途中，フレデリックは戦線から脱走してキャザリンのもとに行く。そしてスイスでキャザリンとの幸福な日々を送る。そのような中，やがて訪れるキャザリンの死によって作品は幕をとじる。

私は，このフレデリックの生き方に，人間らしさというものを感じる。戦争から逃げ出し，恋こがれる女性のもとへ行く。軍人としては恥ずべきフレデリックの行為ではあるが，私は，そんな彼に人間らしさを感じるのである。

軍人として戦争で活躍し勲章を受けるのも一つの生き方だろう。しかし私だったら，フレデリックと同じように「愛」を選んだであろう。

「愛」は人間にとって最も大切な要素だと思う。「愛」なしに人間は生きられる生物ではない。戦争にしても，互いに愛し合う気持ちがあれば起るものではないと私は思う。

愛する人がいるということは，幸せだ。愛する事が出来ない人がいるとすれば，その人は不幸であろう。愛する人のために尽くしてやる事，それが我々人間としての生きがいではないだろうか。

やがて，フレデリックにとって最愛の人であるキャザリンに死が訪れる。フレデリックとキャザリンの愛の証（あかし）である子供のために，キャザリンの命の火は，あえなく消えうせてしまう。不幸にも，子供も死産であった。

この結末のむなしさに，私は読後も強い悲劇の余韻の中にひたっていた。

スイスでの極限状況における純愛と，あまりにもあっけないキャザリンの死の結末のむなしさ。この二つはあまりにもあざやかに，幸・不幸，表裏をみせつけた。人間の死とは，こんなにもあっけないものなのか。

私は以前，武者小路実篤の「愛と死」を読んだ事が

ある。主人公と，その友人の妹である夏子との間に恋が芽ばえ，幸せな日々を送るが，ある日突然，主人公は，夏子の死を知らせる電報をうけ取り，悲しみの底に陥る。この作品も，人間の幸・不幸を述べている。

人生は無常であり，悲惨な事はいくらでも起り得ることを，誰もが知っている。
しかし，我が身にこの災いがふりかかると，誰もが信じられない気持ちになり，限りない悲しみにうちひしがれる。

人間の幸福と不幸は背中合せであり，人生につまずくことは，いくらでもあることを，私はこの作品を通じて痛感させられた。

---

16. 漢楚の興亡ー項羽の人物と行動（司馬　遷）

4E　芥川　進

項羽とは決して考え深い人ではないし，感情におぼれるといった感が強い人物であると思う。が戦乱の世にあって一国の大将として戦い続けてきたことは立派ではないだろうか。ただし大きな事はやってのけるが小さな事には気を使うことができず，どちらかというとぶっきらぼうな性格ではなかったのかと思う。

死期迫るに至っての姿が一番好きである。何がどうあれ一時は強大な権力者としてくんりんしていたのである。それが力によって得たもので，今それ以上の力によってほろぼされようとしているのは，さだめとしかいいようがない。一人の女性にも慕われ，人間的にあたたか味のある大きな心の持主だと思った。ただ

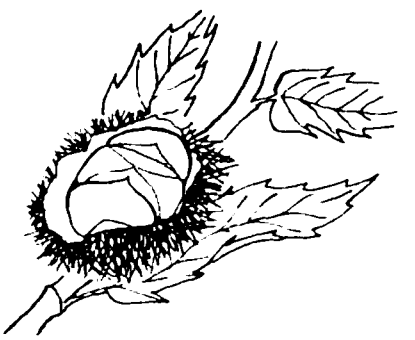
ただ，もっと平凡な生活がしたかっただろうが，戦乱の世にあってはそうも行かず，戦った事はどうにもならない結果で，故郷に帰りたがった気持ちなどは，戦乱を突破してきたとは思われない感がある。きっと平和のために戦ったのだと思いたい。ただ，項羽は感情に動かされたりする所があり，それが咸陽を焼いてしまったのはまことに残念である。沛公のぬけめなさにくらべて項羽のぬけている所は多分にあるが，どこかにくめないし，いい人ではないかと思わせてしまう所がある。もっと部下に恵まれれば良かったのにと思う。そして戦乱の世でなければもっと幸福にくらせたのにと思う。項羽はある意味で違った人生を歩んだ人だなあと思われた。

4土　箱崎　高秀

項羽は，いささか単純な人間であり，人の意見や助言を聞かずに行動に出たり，そのくせ，細説にまどわされたり，よくもまあ，こんな人間が戦いにおいて連戦連勝をしたものだと思った。

が，考えてみれば，彼のような性格は，調子ずくと一気に，思ったことが意のままになるものだ。現代においては，こう書いては失礼にあたるかも知れないが現役時代の長島監督のように，…だが，項羽と彼との違いは，彼は，調子が最高調のときも他選手（この場合の部下）を常に気づかっていたが，項羽にはそれがなかった。自分のやりたい放題で他人の迷惑も顧りみなかった。これでは，家来がついてはくれないであろう。私は将軍とは，常に下の者を気づかっていかなければならないと思う。もし，この時点で項羽にそれがあったならば，まだまだ，彼の連勝は続いたであろう。そうすることによって，彼に信頼が集まるからである。

項羽は，そうしなかったが，彼の最期にとった態度はりっぱであると思う。逃げ場を失った者がとる一種の偽正義感ととられるきらいはいささかあるものの，最後は，男らしく一人で立ち向かい，自決する所など武士として一番りっぱな行動であると思う。



お知らせ

○機械工学科の図書委員の交代

淡路教官の外地留学に伴い，9月から佐藤新太郎教官が。

○第2回学生図書委員会（9月19日）で相談した事

1. 本校図書館規程第5条に図書委員の役目として定めてある「図書館の運営に協力援助する」ためには，具体的には何ができるか。
2. 図書帯出カードをまだ作らない者（2年105名，3年47名，4年27名，5年68名）を促進するために委員が乗り出すにはどうするか。
3. 図書館の利用を防げる条件は何か，どう解消するか。

図書館に対する要望や意見と当面のお答え

今まで学級委員長懇談会や学生図書委員会を通して出されたものに，とりあえず回答しておきます。
今後もできる限りの改善に努める考えです。

1. 帯出冊数(3冊)期間(1週間)をふやせないか？

• 今の制限下で特に窮屈を感じる人はまだ多くないと見ています。卒業研究やゼミナールのためには，指導教官の承認の下に，ゆるめています。

2. 開館時間を延ばし，また土曜午後や日曜も開けないか。

• 前々からの要望に基づいて，去る51年6月から1年間，土曜午後も開館してた時の統計では利用者が平均1日に1人弱でした。(現在も開いています)

また日曜は，事務官の勤務の制度上困難です。

要するに1と2のような種類の声は，やがて学生諸君の実行を伴う熱望・切望の段階に燃え上がった暁は，再考されるに違いありません。

3. 専門書の買入れに，学生の意見を入れてほしい。

• こういうパイプ役としても，各科に教官の委員が定められています。進んで具体的に申出ることを待っています。

4. 月刊雑誌が棚に並べられるのが遅い。

• どのていどの遅れか，調べて，出入りの書店を督促することにします。

5. 帯出カード3枚に毎年度初，顔写真を張る煩わしさと費用はどうにかならないか？

• この「きまり」は，国有財産である図書の紛失を防ぐためのものですし，年初1回の手続きで多大の便益を受けられるのですから，ヤル気を起こして作ってもらいたいものです。今回，写真代60円で済む手続きを各学級の図書委員が橋渡ししてくれることにしました。ただし，根本的に，もっと簡便で実効のあるシステムを，校長先生のお勧めもあり，再考してみるつもりです。

6. 図書館のすぐそばのブラスバンドの高音は困る

• 吹奏者本人には気の毒ながら，図書館の建物に住む人々の共通の悩みでもあります。あちらも立ち，こちらも立つような名案を，学校全体の立場から考えてもらうよう，その筋にお願いしてあります。

寄贈図書の紹介

元本校教官伊関秋雄氏が，下記図書を寄贈して下さいました。厚くお礼申上げます。末永く図書館に備付け活用させていただきます。

常微分方程式　技術者のための高等数学1　線形代数と応用解　同2　確率統計入門　同4　平面解析幾何学　確率論　計算図表学　極限論　直流機　新訂電気工学原論　上　3電気計測　4電子工学　9電気材料および部品　12自動制御　14電気工学概論　自動制御理論　初めて学ぶ人のための自動制御　自動制御の基礎　自動電圧調整装置の理論と実際　マグネットワイヤ選び方使い方　電子計算機概論　フォートランのＡＢＣ　発電工学　防爆電気機器原論　図学と製図　一般力学　波動力学研究序説・力学　数学概論　幾何光学　物理数学1　電気応用　電気機器1.2　指導書　電気理論2　産業安全　代用金属巻線の電機　品質管理読本　最新電力輸送及配電　配電編　輓近の火力発電所　工業数学電気工学円線図　工業伝熱論　工業用材料1　工業振動学　上　理論電気学1～4　波動力学研究序説　力学　数学概論　幾何光学　巻上機及起重機　上　工業熱力学1　蒸気原動力　上　材料力学　上　対称座標法　電気機器設計1.2　電気工学実験ノート　上　強電流実験工学　改訂新版　電気測定法　電気磁気測定法並測定器具　上　下　アルス機械工学大講座4.6 8.10　交流理論　電気製図　新制電気製図　金相学　応用水理学　電機設計原論　交流電機の捲線法　機械設計　ファンとブロワー　初級技術者のための電気理論演習　下　中　電気磁気学　交流理論及其の計算法　ＪＩＳに準拠したＦＯＲＴＲＡＮ基本コース　切鉄応力論　エネルギー変換工学入門　上　下　電気機械構造論　電気機械設計　解析立体幾何学　継電器工学　交流理論と其実際　電気回路2　解説電気理論　計測機器　1機器編　交流理論　初等ベクトル解析　ベクトル解析　確率及最小自乗法　高等微分学　数学叢書　初等微分　高等積分学　平面解析幾何学講義　数学叢書第7編行列式　電力系統運転編　送電計画編　送電線路設計編　送電回路の電気特性　送配電工学前編　送電系統の安全問題　対称座標法解説　原子力ハンドブック　熱伝導論　電気機械工学1　電機設計大学講義

新着図書目録

※印は図書館，他は各教官の研究室に所在するものを分類別受入順に記載

総　　記

福島民報編刊版　昭和54年2月～5月号　福島民報社※
朝日新聞編刊版　昭和54年2月～6月号　朝日新聞社※

万有百科大事典
1 日本大地図　別巻　小学館
2 世界大地図　同

世界大百科辞典
1 アーアン　平凡社
2 イーイン　同
3 ウーエホ　同
4 エマーオン　同
5 カーカタ　同
6 カチーカン　同
7 キーキヨ　同
8 キラークン　同
9 ケーケン　同
10 コーコオ　同
11 コカーコン　同
12 サーシウ　同
13 シエーシモ　同
14 シャーシュ　同
15 ショーシワ　同
16 シンースン　同
17 セーセリ　同
18 センーソン　同
19 タータン　同
20 チーチン　同
21 ツーテン　同
22 トートン　同
23 ナーヌン　同
24 ネーハト　同
25 ハナーヒモ　同
26 ヒャーフヨ　同
27 フラーヘワ　同
28 ヘンーホン　同
29 マームチ　同
30 ムツーユサ　同
31 ユシーリヨ　同
32 リラーワン　同
33 索引　補遺　同
世界地図　日本地図　同

アメリカ古典文庫
1 フランクリン　研究社※
3 J.Fクーパー　同※
4 H.D.ソロー　同※
5 ウオルトホイットマン　同※
6 マークトウェイン　同※
7 エドワードベラミー　同※
10 ヘンリージエイムス　同※
11 チャールズ.Aビアート　同※
12 D.H.ロレンス　同※
13 ジョン.デューイ　同※
14 アメリカインデアン　同※
15 ピューリタニズム　同※
16 アメリカ革命　同※
17 超絶主義　研究社※
18 社会進化論　同※
19 黒人論集　同※
20 社会的批評　同※
21 ヨーロッパ人のアメリカ論　同※
22 アメリカ人の日本論　同※
23 日本人のアメリカ論　同※

人類の知的遺産
12 イエスキリスト　講談社※
17 マホメット　同※
19 朱子　同※
20 トマスアクィナス　同※
42 アダムスミス　同※

東洋文庫
350 薩摩反乱記　平凡社※
351 中国民衆反乱史　同※
352 南方熊楠文集 1　同※
353 幕末の宮廷　同※
354 南方熊楠文集 2　同※
355 幸若舞 1　同※
356 アラビアンナイト　同※
357 憲政録　同※
358 トルキスタン再会　同※

中国古典新書
六韜三略　明徳出版※
伊川整墳集　同※

ノリスマクワーター
ギネスブック　世界記録事典　講談社※

矢口進也
文庫そのすべて　図書新聞※

神田善一郎
雲林閑話　岩波書店

杉田栄三
比較日本の会社　新聞社　実務教育出版※

P.Gハマトン
知的生活　講談社※

保坂政和
広報社内報と機関紙学校新聞編集整理入門　日本工業新聞社※

哲　　学

仏教学辞典　法蔵館※
新約旧約聖書語句大辞典　教文館

山田晶　在りて在る者　創文社

高取正男
神道の成立　平凡社

大井正　未開思惟と原始宗教　未来社

森岡清美編
変動期の人間と宗教　同

山折哲雄
霊と肉　東京大学出版局

佐伯好郎
景教の研究　名著普及会

伊藤義教
ゾロアスターの研究　岩波書店

堀米庸三
西欧精神の探究　日本放送出版協会

清水乞編
仏具辞典　東京堂出版※

金岡秀友編
空海辞典　同※

樋口謹一
ルソーの政治思想　世界思想社

山岳宗教史研究叢書
1 山岳宗教の成立と展開　名著出版※
2 比叡山と天台仏教の研究　名著出版※
3 高野山と真言密教の研究　同※
4 吉野熊野信仰の研究　同※
5 出羽三山と東北修験の研究　同※
6 山岳宗教と民間信仰の研究　同※
7 東北霊山と修験道　同※
8 日光山と関東の修験道　同※
9 富士御嶽と中部霊山　同※
10 白山立山と北陸修験道　同※
11 近畿霊山と修験道　同※
12 大山石鎚と西国修験道　同※
13 英彦山と九州の修験道　同※

図説現代の心理学
1 パーソナリティ　講談社
2 人間性の発達　同
3 学習　記憶　思考　同
4 感覚と感情の世界　同
5 異常の心理学　同
6 社会心理学　同

講座現代の人間学
1 人類の進化と人間像　白水社
3 文化理論と人間像　同
6 生活宗教と人間像　同
7 哲学的人間学　同

仏教思想研究会編
恩　平楽寺書店

日本仏教学会編
仏教儀礼　同

世界宗教史叢書
6 ヒンドウ教史　山川出版社
9 道教史　同
11 日本宗教史 I　同
12 同 II　同

日本仏教基礎講座
5 浄土真宗　雄山閣※
6 禅宗　同※

日本思想大系
8 古代政治社会思想　岩波書店

太田雄三
内村鑑三　研究社出版

叢書身体の思想
1 道の思想　創文社
ルソー全集 3～5.8.9　白水社※

歴　　史

日本地名大辞典　25五賀県　角川書店※
同　32島根県　同※
国語辞書を批判する　桜楓社※
和英日本文化辞典　ジャパンタイムズ

島田謹二
ロシアにおける広瀬武夫　上　下　朝日新聞社※

J.ブノア.ヌシャン
クレオパトラ　みすず書房

樋口清之
私の奈良案内　主婦の友社※

人物現代史
1 ヒトラー　講談社※
2 ムッソリーニ　同※
3 スターリン　同※
4 チャーチル　同※
5 ルーズベルト　同※
6 ケネディ　同※
7 ドゴール　同※
8 ホーチミン　同※

9　毛沢東　講談社※
10　ファイサル　同　※
明治大正図誌
3　東京（三）　筑摩書房※
12　近畿　同　※
17　図説年表　同　※
日本の山河
10　天と地の旅　愛媛　図書刊行会※
11　同　香川　同　※
35　同　東京　同　※

社会科学

研究テーマ事典　学界編第一次　日本ビジネスレポート
河合栄治郎全集 1～23　別巻　社会思想研究会※
注解学校事故判例集　第一法規
日本の統計　1978　大蔵省印刷局
新国民経済計算の見方使い方　同
共同研究　転向　改訂増補　中　下　平凡社
日本国勢図会　1979版　国勢社
日本大学大鑑　1979　日本学術通信社
H.M.ワグナー
1　オペレーションズリサーチ入門　培風館
2　同　同
5　同　同
高橋敏　日本民衆教育史研究　未来社
遠丸立　死の文化史　泰流社
講座現代教育学
1　教育原論　福村出版
2　日本教育思想　同
3　西洋教育史　同
4　教育社会学原論　同
5　現代教授学　同
6　教育行政学　同
7　世界の教育　同
8　社会教育　同
9　道徳教育　同
経済企画庁調査局編
経済要覧　1979年版　大蔵省印刷局
矢部六郎
不動産の表示に関する登記申請手続の実務　日本測量協会
沢田慶輔
クラブ活動指導事例集　第一法規
間庭充幸
共同態の社会学　世界思想社
全訳世界の地理教科書シリーズ
15　エジプト　帝国書院
16　イスラエル　同
17　イラン　同
18　スイス　同
19　イタリア　同
20　オランダ　同
21　ルーマニア　同
22　メキシコ　同
総合研究アメリカ
1　人口と人種　研究社
2　環境と資源　同
4　平等と正義　同
5　経済生活　同
6　思想と文化　同
7　アメリカと世界　同
比較生活文化事典
1　日本　アメリカ　メキシコ　大修館書店
日本社会運動人名辞典　青木書店※
Nippon a charted Survey of Jappan 1978－1979　国勢社
Education in Jappan 1978　ぎょうせい※
Elizabeth Laird
English in Educalion　Oxford

自然科学

マクロービル科学技術用語大辞典　日刊工業新聞社※
共立数学公式　共立出版
日本の衛星写真　朝倉書店
岩波数学辞典第2版　同
湊正夫他
地質調査法　古今書院
藤田和夫他
地質図の書き方と読み方　同
波多野博行
実験高速液体クロマトグラフィー　化学同人
谷一郎他
流体力学実験法　岩波書店
渡部降一
テイラー展開　共立出版
稲葉三男
一環級束　同
秋山武太郎
わかる微分学　日新出版
奥川光太郎
応用抽象代数学　コロナ社
松坂和夫
代数系入門　岩波書店
森川寿　不変式論　紀伊国屋書店
日野原幸利
入門可換代数　宝文館出版
岩井斉良
ホモロジー代数入門　サイエンス社
斉藤豊一
工科系のための確率と確率過程　同
小和田正
マルコフ連鎖　日日社
原田雅巌
確率モデル　マグロウヒル好学社
E.J.ハナン
時系列解析　培風館
I.M.シンガー
トポロジーと幾何学入門　同
ブラウン
位相空間入門　マグロウヒル好学社
戸田宏他
ホモトピー論　紀伊国屋書店
秋山武太郎
わかる積分学　日新出版
酒井孝一
無限級数　共立出版
中沢貞治
重積分　同
山崎泰郎
無限次元空間の測定　上　下　紀伊国屋書店
吉田耕作他
函数解析と微分方程式　岩波書店
壬生推道
位相群論概説　岩波書店
坪崎勉　変換の幾何学　槙書店
富山小太郎
力学　岩波書店
田代嘉宏
確率と統計要論　森北出版
柴田稔　平均値の定理　共立出版
ポレビッチ
整数論　上　下　吉岡書店
小泉澄之
フーリェ解析　朝倉書店
今井功　等角写像とその応用　岩波書店
片山孝次
整数論入門　実教出版
藤崎源二郎
代数的整数論入門　上　下　裳華房
石田信　代数的整数論　森北出版
大矢真一
数学と数学記号の歴史　裳華房
小松勇作編
数学英和和英辞典　共立出版
大槻正　圏論　カテゴリー　槙書店
S.リリー
人類と機械の歴史　岩波書店※
A.エチオーニ
人間生物学の衝撃　新曜社
高橋清　センサ技術入門　工業調査会
森本久弥
国土基本図図式規程の解説　日本測量協会
岡田喜雄
地図をつくる　新人物往来社
丸安隆和
日本の衛生写真　朝倉書店
Nasa　世界人工衛生写真　同
戸田盛和
楕円関数入門　日本評論社
横道英雄
テンソルとレオロジー　技報堂出版
柴垣三雄
ルベーグ積分入門　森北出版
辻正次　実函数論　槙書店
梅垣英勝
振動論　コロナ社
I.アシモフ
科学技術人名辞典　共立出版
小泉澄之
実解析　実教出版
F.Smithies
自然科学者のための積分方程式論　講談社
エス.ゲ.ミフリン
微分積分方程式の近似解法　文一総合出版
R.ツルミュール
マトリクスの理論と応用　ブレイン図書
森村英典
応用待ち行列理論　日科技連出版
森口繁一他
数学公式　Ⅱ，Ⅲ　岩波書店
吉川虎雄
新編日本地形論　東京大学出版会
L.E.エルスゴルツ
科学技術者のための変分法　ブレイン図書
科学技術者のための学習指導書　同
A.ポルトマン
脊椎動物比較形態学　岩波書店
今井功　流体力学　前編　裳華房
大島新治

図説人体の構造と機能　新思潮社
田中昇　図説人体の病理　同
図説救急処置　同
村山知典
図説骨折脱臼捻挫の救急法　同
伊藤鎮夫
図説人体生理学　同
田中昇　図説看護の基礎　同
川島昭司　同
図説生理学の基礎
数学セミナー増刊　数学用語集
日本評論社
基礎数学選書
11　座標　裳華房
数理解析とその周辺
3　確率過程講義　産業図書
サイエンスライブラリ物理
6　振動と波動　サイエンス社
数学ライブラリー
6　グラフ理論の展開と基礎　森北出版
30　グラフ理論の展開と応用　同
バークレ物理コース
3　波動　上　下　丸善
現代数学レクチャーズ
1　代数学　培風館
共立数学講座　共立出版
25　積分論　共立出版
朝倉地理学講座
3　地理学　朝倉書店
現代天文学講座
3　太陽系の構造と起源　恒星社
4　惑星探査と生命　同
シリーズ新しい応用の数学
10　確率分布の近似　教育出版
18　解析数論　同
19　時系列解析の数学的基礎　同
20　スプライン関数とその応用　同
ブルーバックス
376　銀河旅行　講談社※
378　生物の飛行　同　※
379　銀河旅行　PAT，Ⅱ　同　※
380　比較統計学のすすめ　同　※
381　次元とはなにか　同　※
382　手作りエネルギー　同　※
385　実践的植物検索小図鑑　1春～初夏
同　※
388　三次元数学パズル　同　※
389　脳をあやつる分子言語　同　※
390　砂漠化する地球　同　※
391　統計で勝つ　同　※
392　数学ぎらいをなくす本　同　※
社会科学行動科学のための数学入門
1　基礎数学　新曜社
2　統計的方法　Ⅰ基礎　同
3　同　Ⅱ推測　同
5　線形数学　同
6　多変量解析　同
7　実験計画　同
8　数学モデル　同
9　コンピュータプログラム　同
S.S. Chern
Selected Papers　Springer
Johan L. Dupont
Curvature and Characteristic
Classes　同
Werner Greub
Connections Curvature and
Cohomology　Academic
Robert Herman
Quantum and Fermion Differential
Geometry　Math Sci Press
Robert Turretti
Philosophy of Geometry from
Riemann to Poincare　Reidel
M.F. Atiyah
Introduction to Commutative
Algebra　Addison－Wesley
Phillip Griffiths
Principles of Algebraic Geometry
John Wiley
Eutequio C. Young
Vector and Tensor Analysis
Marcel Dekker
Basic English for Science　Oxford
J.R. Green
Statistical Treatment of
Experimental Data　Elsevier
Serban Stratila
Lectures on Von Neumann
Algebras　Abacus
Joy Parkinson
English for Doctors and Nurses
Evans Brothers Limited
P.H. Leblond
Waves in the Ocean　Elsevier
Rosalie Kerr
Nucleus Nursing Science　Longman
同　Teachers Notes　同

工学・技術

日本建設機械要覧　1972
日本建設機械化協会
下水道管渠施工ハンドブック　山海堂※
薄膜微粒子の構造と物性　丸善
土木工事標準積算便覧　鹿島出版社
立体橋断施設技術基準解説　日本道路協会
中上級土木職員採用試験　山海堂
国家地方公務員土木職問題解答 600 題
オーム社
土木技職試験問題解答集　学陽社
土木国家地方公務員問題の解説　理工図書
これで合格土木職技職試験問題集　上，下
啓学出版
建設業者要覧　1979　日刊建設工業新聞社
建設コンサルタント要覧　昭和 54 年度版
建設綜合資料社
新測量学演習　昭晃堂
測量学演習　同
山河計画　補　第 1 巻第 1 号　思考社
疑問にこたえる機械のエレクトロニクス
技術評論社
1　実用基礎編　同
2　応用実験編　同
3　機械応用編　同
土と基礎の設計計算演習　土質工学会
港大橋工事誌　土木学会
日本土木史　昭和16年～40年　同
同　大正元年～昭和15年　同
土木計画学シンポジューム　10～12　同
外国鉄道線路規格　日本鉄道施設協会
新版国鉄施設設計規類集　53年版　同
シールドトンネルの設計施工指針（案）同
第13回衛生工学研究討論会講演論文集
土木学会
同　14回　同
車両検査関係新規程集　日本鉄道運転協会
1級土木工事技術者試験問題解説集縮版
昭和44年～52年度分
土木施工管理技術研究会
2級　昭和45年～52年度分　同
プレストレストコンクリート標準示方書
昭和53年制度　土木学会
地盤改良の調査設計から施工まで
土質工学会
ＪＩＳハンドブック　公害関係 1979
日本規格協会
同　土木 1979　同
トンネル標準示方書　山岳編　シールド編
昭和52年版　土木学会
建設業の中期展望　日本建設業団体連合会
橋　1977－1979　土木学会
設計施工のための橋梁ハンドブック
建設産業調査会
建設機械ハンドブック　鹿島出版会
下水道工事の積算実務　上　下　山海堂
セラミックス材料技術集成
産業技術センター
ＪＩＳハンドブック　機械要素　1979
日本規格協会
機械図集　すべり軸受　日本機械学会
冷凍空調装置の設計例　日本冷凍協会
内燃機関計測ハンドブック　朝倉書店
流質工学文献集覧　公害対策技術同友会
'78 土木工事施工例集　5 河川砂防ダム編
山海堂
同　6 上水道　下水道編　同
公共測量作業規程　日本測量協会
精密測地網二次基準点測量作業規程記載
要領　昭和52年～54年　同
新しい工業材料の科学　複合材料 1
金原出版
ネットワークプランニング　応用編
明現社
マイクロコンピュータ　朝倉書店※
福田仁志
学習実地測量講義　養賢堂
日本道路協会編
道路用語辞典　丸善
塚本正文
コンピュータ測量計算法　現代理工学出版
高橋清　下水道施設　計画と設計　明現社
日本地球化学会編
水汚染の機構と解析　産業図書
ユ.ア.クロトフ
大気および水中の有害物質の許容濃度
講談社
H.C. マーチン
有限要素法の基礎と応用　培風館
岡村弘之
強度の統計的取扱い　同
加藤八州夫
レール　RAIL　日本鉄道施設協会
石川六郎
システムズアプローチによる工事管理
鹿島出版会
近藤次郎
数学モデル　丸善
加藤三重次
建設機械　技報堂出版

建設機械と土質　日本工業出版
F.P.ベアー
工学のための力学　上　下　ブレイン図書
D.J.ハター
機械振動解析とプログラミング　同
J.M.プレンティス
マトリクス機械振動解析入門　同
同　練習問題解説書　同
森口繁一
二次元弾性論　産業技術センター新社
E.C.ペステル
マトリクス弾性力学　同
高田邦通
交通調査マニュアル　鹿島出版社
山田邦光
土留めアンカー工法　理工図書
菊池洋一
大学課程　橋梁設計例　オーム社
梅木武　トンネル力学　共立出版
土木学会編
地下構造物の設計と施工　土木学会
五十嵐日出夫編
土木計画数理　朝倉書店
土質工学会編
建設工事における土質工学の実用例
土質工学会
白石俊多
基礎Ⅰ,Ⅱ　技報堂
坂井秀春
チップソー　槙書店
加川幸雄
電気電子のための有限要素法入門
オーム社
橋梁研究会編
鋼橋設計資料　技報堂
米国内務省開拓局編
コンクリートマニュアル　国民科学社
土質工学会編
土のはなし1～3　技報堂出版
高崎正義
空中写真の見方と使い方
全日本建設技術協会
桜井千春
はじめて学ぶICとIC回路　技術評論社
谷藤正三
総合交通計画　技報堂
工業火薬協会編
発破ハンドブック　山海堂
松尾新一郎
土中水－理論と対策－　日刊工業新聞社
松本嘉司
土木解析法1,2　技報堂出版
米谷栄二
土木計画便覧　丸善
日本鋼構造協会編
スペースストラクチャーの解析
鹿島出版会
藤井太一
複合材料の破壊と力学　実教出版
L.I.セドフ
連続体力学1　森北出版
近藤次郎
数学モデル　丸善
土木学会編
土木工事の積算　土木学会
K.チェッキー
トンネル工学　鹿島出版会

前川純一
建築音響　共立出版
実吉純一
電気音響工学　コロナ社
布川昊　制御と振動の数学　同
Robert M.Woelfls
技術発表のすべて　丸善
高岡宣善
不静定構造力学　共立出版
沼田政矩
鉄道工学　技報堂出版
土木学会編
土木工学ハンドブック　上　中　下
資料編　同
M.David Prince
コンピュータ・グラフィックス　オーム社
渡部和　線形回路理論　昭晃堂
森崎勝　工学のための応用数値計算法入門　上　下
コロナ社
山谷正己
仮想記憶システム入門　オーム社
河内洋二
実験で学ぶディジタル回路　啓学出版
H.Y.チャン
ディジタルシステムの故障診断　産業図書
Calahan
電子回路設計　日刊工業新聞社
中川徳郎
図解測量受験演習　現代理工学出版
中谷亘　建設技術者のための法規と行政
国民科学社
岡橋満　測量の誤差計算　森北出版
丸安隆和
測量のための数学　オーム社
佐藤勇　土地家屋調査士のための改正表示登記と
測量実務　日本測量協会
小堀為雄
応用土木振動学　森北出版
小坪清真
土木振動学　同
石田誠　き裂の弾性解析と応力拡大係数　培風館
セドフ　連続体力学　同
三好俊郎
有限要素法構造要素の変形破壊挙動の解析
実教出版
米谷栄二
新版測量学　一般編　丸善
石源藤次郎
同　応用編　同
岡橋満　一般測量学　森北出版
応用測量学　同
種田守　写真測量　オーム社
佐藤一彦
海洋測量ハンドブック　東海大学出版会
藤井鹿三郎
近代測量学　技術書院
谷本勉之助
演算子法構造解析1　森北出版
星谷勝　確率論手法による振動解析　鹿島出版会
川本眺万
地盤工学における有限要素解析　培風館
G.ストラング
有限要素法の理論　同
O.C.ツイエンキーヴィッツ
マトリックス有限要素法　同
R.H.ギャラガー
ギャラガー有限要素解析の基礎　丸善

小西一郎
構造力学Ⅱ,Ⅲ　丸善
R.E.グッドマン
不連続性岩盤の地質工学　森北出版
前川道郎
図形と投象　朝倉書店
河村協編
新版土木職員採用試験　山海堂
角江登　公務員主要会社土木技術職員採用試験
問題集　理工図書
郷沢健　トランジスタ集積回路演習　実教出版※
山口梅太郎
岩石力学入門　東京大学出版会※
内橋克人
匠の時代　サンケイ出版
M.F.ルービンスタイン
有限要素法による線形構造解析　培風館
若園吉一
爆破　鹿島出版社
河上房義
土の締固め　同
土木学会編
日本の土木地理　土木学会
松本嘉司
土木解析学1,2　技報堂出版
P.チャドウイック
連続体力学　ブレイン図書
W.フリューゲエ
テンソル解析と連続体力学　同
大槻忠　環境アセスメント報告書の作り方
武蔵野書房
岡本惠之
地域環境管理計画の立て方　同
A.V.Oppenheim
ディジタル信号処理　上　下　コロナ社
電子通信学会
電子通信ハンドブック　オーム社
佐用泰司
増補版工事管理　鹿島出版会
岩松幸雄
ケーソン基礎の設計と考え方　同
橋台及び橋脚の設計と考え方　同
M.ウオール
計画者と技術者のための交通工学　上　下
同
C.R.ワイリー
工業数学　上　下　同
陸塚龍次郎
新相似律と特許流量計算法　自然科学新社
藤森謙一
新しい軟弱地盤処理工法　近代図書
福岡正巳
現場技術者のための仮締切工の設計計算法
と施工　同
同　3 東土圧土留計算法と実例　同
石橋克司
ディジタルカウンタの作り方使い方
オーム社
京牟礼和夫
場所打ちぐいの施工管理　山海堂
西田哲夫
実務者のための下水道技術ポイント　同
H.N.ベズーホッフ
弾性塑性論　現代工学社
佐用泰司
土木の見積と工程管理　鹿島出版会
C.S.Desai

マトリックス有限要素法　科学技術出版社
北郷薫他
最新機械設計編　機械の研究第30巻第1－2号別冊　養賢堂
樋田昭　改訂伝熱工学演習　学献社
相原利雄
伝熱工学の進展　養賢堂
今野金順
ミニコンピュータ応用技術　CQ出版
伊藤誠　基本ハードウェア技術　同
丹保憲仁他
下水道工学例題演習　近代図書
土木計画学シリーズ
土木計画学の成立と背景　技報堂出版
土木計画学の領域と構成　同
土木計画における最適化　同
木下武之助編
鉄道道路曲線測量表附布設法　理工図書
土質工学基礎叢書
1　土の工学的分類とその利用　鹿島出版会
7　土圧　同
土質基礎工学ライブラリー
3　堀削のポイント　土質工学会
朝倉土木工学講座
13　鉄道工学　朝倉書店
わかり易い土木講座
2　測量　1基礎　彰国社
固体の力学シリーズ
1　粘弾性学　培風館
3　構造安定の原理　同
6　非線形動的弾性学　同
ブルーバックス
383　設計からの発想　講談社※
384　飛行船の再発見　同　※
386　飛行機をとばすコマ　同　※
387　マイコンソフトウェア入門　同　※
土木工学大系
2　自然環境論　彰国社
7　連続体の力学Ⅲ　同
9　材料工学　同
12　計画論　同
13　景観論　同
14　環境アセスメント　同
16　路工論　同
17　プロジェクトマネジメント　同
18　国土調査論　同
19　地域開発論1　同
20　同2　同
23　都市および集村計画　同
24　水資源　同
27　エネルギー開発　同
28　環境衛生　同
31　土地開発　同
33　ダム　同
35　海工システム　同
昭和54年度電子通信学会総合全国大会講演論文集　電子通信学会
橋梁架設工事の積算　日本建設機械化協会
発明とアイデアの歴史　講談社
½合本2　工学社
下水汚泥の処理処分Ⅲ　日本下水道協会
J.ポトマ
ひずみゲージ理論と応用　共立出版
James McAllister
English for Electrical Engineers　Longman
J.K. Paul
Methanol Technology and Application in Motor Fuels　Noyes
B. Pilkey
Fracture Mechanics　Virginia
Edward Schrelber
Elastic Conseants and Their Measurement　Mc GaW－Hill
T.C.Jupp
Industrial English　Heinemann
S.G Lekhnitskii
Anisotropic Plates　Gordon and Breach

産　業

北原覚一
木材物理　森北出版
枝松信之
製材と木工　同
大迫錦道
画地盤　古今書院
動力車乗務員運用規程集　日本鉄道運転協会
経済企画庁編
経済企画庁総合開発行政の歩み　経済企画庁

芸　術

浜田靖一
図説マット運動　新思潮社
とび箱運動　同
フリーダナイト
ベートーヴェンと変革の時代　法政大学出版局
竹内敏雄
塔と橋　技術美の美学　弘文堂
特活シリーズ
5　図解スケートの教室　北隆館※
10　図解サッカー教室　同　※
22　図説野球ソフトボールの教室　同　※
23　図解バスケットボールの教室　同　※
古寺美術全集
1　法隆寺と飛鳥の古寺　集英社
3　薬師寺と唐招提寺　同
浮世絵聚花
1　シカゴ美術館　小学館※
3　ボストン美術館　同　※
日本絵巻大成
22　彦火々出見尊絵巻　浦島明神縁起　中央公論社※
25　融通法師絵詞　福富草紙　百鬼夜行絵巻　同　※
26　西行物語絵巻　同　※
新修日本絵巻物全集
19　三十六歌仙絵　角川書店※
28　伊勢新名所絵歌合　東北院職人歌合絵巻　同　※

語　学

英語客観テスト問題集1～5　開拓社※
初級英英辞典　同　※
中級英英辞典　開拓社※
英語学習総合事典　旺文社※
鈴木信太郎
スタンダード仏和辞典　大修館書店
曽我松男他
英文基礎日本語　同
F.J.Daniel
英文を書くための辞書　北星堂書店
広田栄太郎
類語辞典　東京堂出版
田中秀央
ギリシャラテン引用語辞典　岩波書店
金田一春彦
学研国語大辞典　学習研究社
藤堂明保
漢字入門　東京放送出版協会※
小川芳男
よくわかる英文法　旺文社※
日本英語教育協会編
実用英語検定2・3級全問題集　日本英語教育協会※
英検合格のための2・3級実用英語教本　同　※
小学館ランダムハウス英和大辞典　小学館
大塚高信
英語語辞典　三省堂※
J.C.リチャーズ
目で見るアクション英単語集1～3　オックスフォード大学出版局
藤原宏編
漢字書き順字典　第一法規
藤堂明保
中国語概論　大修館書店
唐作藩　漢語音韻入門　明治書院
山口百々男他
項目別通訳ガイド辞典　ジャパンタイムズ
村石利夫
日本形容詞辞典　日本文芸社
佐藤通次
言の林　同
続言の林　同
新釈漢文大系
29　礼記　明治書院※
54　淮南子　上　同　※
角川小事典
7　基礎日本語　角川書店
11　比喩表現辞典　同
17　擬音語擬態辞典　同
ことばシリーズ
1　敬語　文化庁
2　言葉のしつけ　同
3　言葉に関する問答集1　同
4　外来語　同
5　言葉に関する問答集2　同
6　標準語と方言　同
7　言葉に関する問答集3　同
8　和語漢語　同
9　言葉に関する問答集4　同
10　日本語の特色　同
11　言葉に関する問題集5　同
William Strunk
The Elements of Style　Macmillan
Websters New Dictionary of Synonyms　G&C Merriam

文　学

定本国木田独歩全集 1～10別巻　学習研究社
定本上田敏全集 2・4　教育出版センター
露伴全集21～32　岩波書店
明治文学全集
91　明治新聞人文学集　筑摩書房
新潮現代文学
2　井伏鱒二　新潮社
20　太宰治　同
21　檀一雄　同
36　島尾敏雄　同
42　吉行淳之助　同
43　庄井すえ　同
46　司馬遼太郎　同
68　田辺聖子　同
72　柴田翔　同
福永武彦
異郷の薫り　同
尾形仂　俳句の解釈と鑑賞辞典　旺文社
井上宗雄
和歌の解釈と鑑賞辞典　同
前田愛　樋口一葉の世界　平凡社
司馬遼太郎
胡蝶の夢（一）　新潮社
トルストイ
アンナカレニナ　上　東海大学出版会
ゲルマン北欧の英雄伝説　同
世界文学名作と主人公総解説　自由国民社
水原一　平家物語の世界　上　下　日本放送出版協会
目加田誠
唐詩散策　時事通信社
戸板康二
演子のハンカチ　角川書店
綱淵謙錠
海　上　下　河出書房新社
尾形仂　芭蕉の世界　上　下　日本放送出版協会
前田直彬
漢詩の解釈と鑑賞事典　旺文社
小海永二
現代詩の解釈と鑑賞事典　同
梅原猛　万葉を考える　新潮社
平野萬理
晶子鑑賞　三省堂
ドナルド・キーン
日本の魅力　中央公論社
十七世紀英文学研究会編
アンクリカニズムとピューリタニズム　金星堂
筑摩世界文学大系
56　プルースト　1B　筑摩書房
日本文学研究資料叢書
坪内逍遥　二葉亭四迷　有精堂
日本文壇史
23　大正文学の揺籃　講談社
24　明治人漱石の死　同
新潮現代数学
1　川端康成　新潮社
野田宇太郎
1　別巻文学散歩　新東京文学散歩　文一総合出版
22　文学散歩　同
23　同　同
日本現代文学全集
別巻日本現代文学史 1・2　講談社
日本文芸家協会　文学 1979　同
Biathanatos　Arno
W.M.Ingate
The Epithalamions Anniversaries and Epicedes　Oxford
Seventeenth－Century News
Vols 1－9　Ams Press
Vols 10－14　同
Vols 15－19　同
Vols 20－23　同

読んでみませんか――近ごろ収めた本から

I　一般教養書

◇思春期の生きかた　―からだとこころの性―
367　石田和男　岩波ジュニア新書

心身が変化し，性に見覚める時期の生きかたを，歴史的・社会的に考えさせ，また具体的に教えます。

◇知的生活　159　ハマトン　渡部昇一訳　講談社

この方面のバイブルというべき古典的名著。その方法すべてにわたりユニークな示唆を与える。

◇胡蝶の夢　913.6　司馬遼太郎　新潮社

江戸幕府が崩れてゆく嵐の時代，最新鋭の学問を浮袋に身分社会をのし上がる幕臣蘭学者，松本良順

◇濤（とう）上下　913.6　綱淵謙錠河河出書房新社

明治26年の春浅い朝，郡司大尉は同志と共に，波涛の彼方，北千島占守島の探検に隅田川を出航したが。

◇新聞社　070　杉田栄三　実務教育出版

ようやく斜陽化の兆候が現われた新聞大国ニッポンの，過当競争や全国紙対地方紙など各社の内側を衝く。

II　専　門　書

◇「移動論」　三神尚著　朝倉書店

運動量・エネルギーおよび物質の移動現象は，それぞれ流体力学・伝熱工学および化学工学における物質移動論として体系づけられてきたが，本書では，これらの類似性のある移動現象を統一的な見地で説明している。基礎工学あるいは境界領域の分野に新しい理解を与えてくれるだろう。　（佐藤新太郎　教官）

◇炭素の世界　（アシモフ選集）芦ケ原伸之訳　共立出版

すばらしい本である。入門のところで無味乾燥になりがちな有機化学という分野をこれほどわかりやすく述べている本はお目にかゝったことがない。ともかく有機化学におそれをもっている学生に一読を薦めたい。

◇アニリン　科学小説　K.A.シェンチンガー著　藤田五郎訳　法政大学出版局

この本は第二次大戦前から戦後にかけてのベストセラーであるのみならずロングセラーでもある。その秘密は詩人でもあり自然科学者でもある著者が豊富な科学知識を美事な文学作品の形に織りこんだ異色ある文学を読者の前に提示したことにあるだろう。

（以上　小磯武文教官）